

No.111

新設図書館の紹介

西大寺緑花公園緑の図書室



百花プラザ全景

西大寺緑花公園緑の図書室は、「全国都市緑化おかやまフェア」メイン会場跡地（岡山市東区西大寺南一丁目）に、岡山市が再整備していた「西大寺緑花公園」内の体験学習施設

設「百花プラザ」の二階部分に、平成二十二年四月一日にオープンしました。

それまでは、「岡山市立西大寺図書館」が昭和四十六年から西大寺市民会館の三階に併設され、長く市民に親しまれてきました。しかし、二五〇㎡の広さに五万冊の蔵書を所蔵していたため、書架が多くのスペースを占めていました。

今回、西大寺図書館の蔵書等を、体験学習施設に移転するとともに、自然や環境、園芸など緑関連の図書を多く集め、六万五千冊に充実させました。延床面積八〇一㎡と三倍に拡張し、ゆったりと過ごせる読書空間の確保にも努めました。公園内の施設ということもあり、東側には四季それぞれの木々や草花が訪れる人々の目を楽しませてくれます。

一般書、児童書数の増加に加え、雑誌一三七から一八三タイトル、新聞六紙から八紙へと増やし、今までは、スペースの問題もあつて数十本しか置くことができなかつたAV資料

もCD・ビデオ・DVD・語学CDを含め二千百点に増やし、好評を得ています。

来館者も多く、利用も大きく伸びました。

【四月・五月の一ヶ月平均・昨年比】  
新規登録者（五六五%増）

五七人 ↓ 三三二人

貸出人数（二六八%増）

四、一五八人 ↓ 六、九九七人

貸出冊数（二七五%増）

二六、八四一冊 ↓ 四六、八七二冊

特に、ベビーカーを押して来られる若いお母さんや子ども連れで来られる家族が増え、児童コーナーのソファで絵本や紙芝居を楽しむ親子



ボランティアさんによる読み聞かせを楽しむ親子



明るくゆったりとした室内

の姿も多く見受けられるようになりました。また、毎週土曜日の「こどものかん」には大勢の子どもたちが、読み聞かせやおはなしを楽しみに集まって来ています。

子ども達だけでなく、大人の方も足を止めて触ってみられるのが、この図書室の特色ともいえる布えほんです。昭和六十二年からボランティアグループの方が一針一針、丁寧に作り上げてくださる作品は約四十タイトルにもなり利用者の方に、とても喜ばれています。この布えほんは団体への貸出もしています。今年度は九月十月に布えほんボランティア養成講座も開催されます。西大寺に灯った新たな「緑の図書室」という文化の灯が人々に広がるよう、愛される図書室づくりをめざして頑張ります。

（岡崎記）

## 図書館のディスプレイ⑥

## 図書館ポスター掲示

川崎医療福祉大学附属図書館

片岡美佐江



図書館入口「あなたの本はどこ？」

けで中（館内）の雰囲気がぱっと明るくなるね。不思議なものだ、「美術館みたい」、「本の楽しさ」を伝える作品ばかりで本が読みたくなつた」、「どの作品もそれぞれに個性があつて図書館を利用したい、訪れたいと思ひました」

ポスターのコピーもユニークです。「脳内探検中」・「いつも本と一緒」・「わたしの本があらわれた」・「あなたが出会った一冊の本との

川崎医療福祉大学附属図書館では、平成十九年から図書館内に図書館利用推進ポスターを掲示しています。ポスターは、B1サイズ（七二八×一〇三〇mm）です。日本図書館協会から毎年郵送されてくる「図書館をもっと身近に暮らしのなかに」よりかなり大きいです。館内に大きなサイズのポスターが十枚前後あると利用者の目を引きまします。そして、館内が明るく華やかになります。

ポスターを見ての利用者の感想は、「絵（ポスター）が一枚あるだ

物語」・「ビックリがいっぱい」・「この本見つけて」・「知識の種、見つけよう」・「本を読んで自分の考えをもつ」・「読みかけの本、ありますか？」・「あなたよりも本に夢中になっちゃったわ」・「自分の一冊」・「library=answer」・「本があなたにくれるもの あなたが本にもらうもの」

これらのポスターは、当館が、学生参加型図書館創りの企画のひとつとして開催して



ブラウジングコーナー「その木、実のなる木」

いる「図書館ポスターコンテスト」の応募作品です。本学には、医療福祉デザイン学科があり、平成十八年から毎年、図書館利用推進のためのコピーを含めたポスターを募集し、応募された作品を館内に展示し、館内で展覧会を開催しています。展覧会会期中は同時に人気投票を行い、その結果を考慮し、ポスター審査委員会で、最優秀一点、優秀二点を決め、授賞式を行い、受賞者には、学長より賞状と副賞が授与されます。

最初の年は、コンテストが終わると受賞した三点のポスターを額に入れてイーゼルに立てて館内に展示して、その他のポスターは仕舞っていましたが、利用者から、受賞以外の作品も素敵なポスターなので飾ってもらえないかと要望があり、それなら通年全ての作品を展示しようとい



階段前「自分の一冊」

うことになりました。

この企画は、新聞やテレビ局の取材を受け、新聞記事やテレビ放映されました。また、平成二十一年には、第三回目の受賞作品を基に、受賞した学生が葉を作成してくれました。（四枚一セットでデザインを変えて二セット、合計二十セット作成。裏面には大学の学科案内をいれました）印刷費のみなので安価に仕上げることができ、大学のオープンキャンパス等で本学を訪れた高校生や保護者に配布して喜ばれています。

## 「本と子供達をつなぐ架け橋になりたい」

### 山田養蜂場の取組

山田養蜂場 文化広報室 早瀬 智恵

当社では、全国の小学校へ優良書籍を寄贈する「みつばち文庫」や、大人たちに、子供たちのことを考えてもらう時間を持つてもらいたいという願いを込めて始めた「こどもたちのためのミツバチの童話と絵本のコンクール」などの「本と子供たちをつなぐ」社会活動を、十一年前から行っております。

これらの活動は、当社の素朴な問題意識に端を発しています。十一年前、当社の山田代表が我が子の小学校で保護者懇談会に参加した折、「図書室に満足に本がない」と、学校では保護者に本の寄贈を呼びかけているという話を聞き、それを不思議に思ったことがきっかけになっています。本は、決してそれ程高額なものではありません。世界でも有数の経済大国である日本の小学校に本がないことを、異常に思って調べてみると、図書の不足は、日本中の小学校が抱えている大きな問題だったのです。これは、十年経過した現在でも、状況はさほど変わっておらず、公立学校図書館（小学校）の、平成十九年度末における「図書標準達成

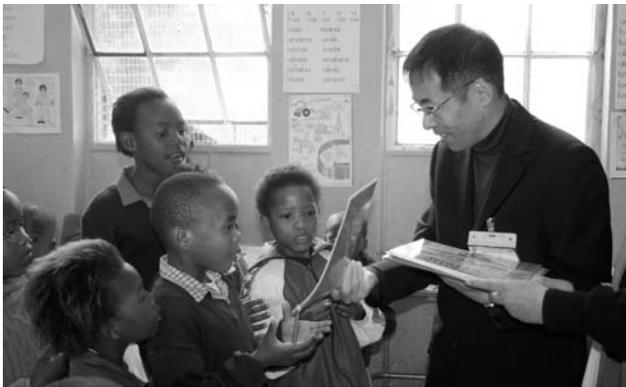
学校数」の割合は四二・五%と、半分以上の公立小学校でいまだ図書不足の状況が続いています。

また、昔の農型社会では家庭の中に親の働いている姿が当然のようにありました。子供たちは大人たちの働く姿を見ながら成長し、周りの人たちもまた、地域ぐるみで子供たちを育くむ土壌がありました。しかし、その当時、忙しく、自分自身の働く姿を子供に見せることができなかつた山田代表は、「世のお父さんたちも、家に帰ったときのわずかな時間しか子供と触れ合うことはなく、学校の現状にまで思い至っていないのではないか」と想像したそうです。

このような、実情を踏まえて、何か自分でも具体的な行動を起こす必要があると感じていた山田代表は、ちようどその折、皇后陛下の『橋をかける』子供時代の読書の思い出『』という非常に衝撃的なメッセージに触れました。このメッセージに触れて、子供たちへの活動に一歩踏み出すことに背中を押されたような気持ちで、「自信を持って、わが子だけでなく、日本の子供たちに

積極的に関わってほしい」「家庭を出て、仕事をしている世の父親と母親の代わりに、子供たちを応援しよう！」「仕事で忙しい両親が子供たちと関われないなら、私は、仕事として、企業メセナとして、子供たちに関わってほしい」と考え、行動を起こしたのです。

現在は電子メディアの影響が大きいく、子供たちの活字離れが進んでいる、と言われております。思考を促す活字文化が廃れたら、伝承しなければならぬ人間としての大切な心が伝承されず、非常に利根的な人間が増えてしまうのではないかとという危機感を感じる今日この頃ですが、



南アフリカにて、子供たちに本を手渡す山田代表

活字を読み、自ら判断する力を養うことは未来社会の為に、とても大切なことだと考えます。

IBBY（国際児童図書評議会）を通じて世界の子供たちの読書環境を整える活動に支援させて頂いているのもその想いの現れです。この活動では、二〇〇四年から毎年、南アフリカの小学校に現地の民族語で書かれた書籍を贈っています。また、スマトラ沖地震を機に創設された「IBBY山田基金」では、二〇〇六年からの活動で、二十四カ国三十六のプロジェクトを支援し、子供たち、家族、教師、司書、出版業者など、読書促進に関わる人々を多面的に支援しています。

その他、国内での活動は、日本絵本賞への協賛や、ブックスタート活動への支援、そして、地元地域にある養護施設での読み聞かせボランティア活動など、問題を発見するごとに、一つずつ解決のための活動を広げてまいりました。

実は、当社の事業活動は、創業者（社長の父、現会長）が心臓病を持って生まれた娘の健康を守るために、苦心してローヤルゼリーの開発を行ったことが大きなきっかけとなっております。娘は、手術の失敗が原因で十四歳でなくなりましたが、創業者は、娘の死に報い



2010年度みつばち文庫。2008年には全国2万3000校の全小学校へ本を寄贈

るためにも、自分が独自に開発した技術を「一人でも多くの人に役立たい」との新たな使命感に燃え、新しい商品の開発と研究に没頭していきました。今でこそ当社は、全国の五五〇万人を越えるお客様からご愛顧をいただく企業にまで成長することができましたが、元はといえば「家族の健康を守るため」という素朴な家族愛からスタートした会社です。「二人の人のために」という創業の精神は、「多くの人の幸せに貢献すること」を意味すると言ってもよいでしょう。企業の目的は、究極的には「社会に役立つため」、「多くの人々の一人ひとりに喜んでもらうため」に存在し、その目的を達成するために利益を出すのが理想ではないでしょうか。

当社が行っている社会貢献活動

は、ひとつひとつは小さな活動かもしれませんが、社会の一員である企業もこんな活動をしていくことで、社会の役に立つのだ、と他の企業に感じていただき、そのロールモデルとなれば良いとの思いで行っております。

### ☆個人会員の紹介☆

## 郷土資料って面白い!?

岡山県立図書館 隈元 恒



### 一 はじめに

岡山県総合文化センターの最後の二年、県立図書館の最初の四年と計六年、郷土資料の部署で勤務しましたが、二年あいてこの四月から再び郷土資料班にて勤務しています。利用者の「また郷土じゃなあ」の声は「よう戻ってきた」なのか「またあんなか」なのか、どっちかしら？まあ、せつかくスペースもいた

いたことですし、隈元の考える「郷土資料、ここが面白い」で、紹介に代えさせていただきます。では。

### 二 郷土って大変じゃない?

はい、こういう声がよく聞きます。でも、そんなことないんですよ。何せ、郷土資料は一般と違って、少ない資料で、全国はおろか全世界からの問い合わせにも対応できます。(対応しなきゃならないとも言おう)

問い合わせに対して、「この資料に出ていなければ何を見てもありません」と自信を持って対応できるようになれば、こっちのもんです。簡単簡単。

### 三 キーボードを叩いたら負け。

何のこっちゃ?でしょ。

二に関連して、決して多くはない郷土資料。ならば、なるべく頭の中に入れて、利用者(と自分)の時間を節約せな。

で、利用者からの問い合わせに端末のキーボードを叩いたら負け、端末を使わずに対応できたら勝ち、と決めて勝手に勝負。もちろんキーボードを叩かなかつたからといって、利用者にとってベストの資料を提供できなければ本末転倒ですけどね。

### 四 マスコミからの問い合わせも多いよ。

聞かれることは厄介だったり、急かされたりすることも多いけど、「こっちはやっつて番組を作ってるんだ」とか、後で番組を見てふむふむと一人ほくそえむのも楽し。「あんだだけ走らせるとして、使ったのはたったの二秒ですか!」とテレビに突っ込むのもまた楽し。

### 五 貴重資料もさわられるぞ。

百年、二百年前の貴重な資料もデジタル化が進み、そのほとんどをインターネット上で見ることができず。でもでも、本物にはかないません。紙の質、厚さ、折り目の向き、朱肉の違いなど、その情報量はデジタルの比ではありません。

さらに県立図書館の場合、貴重資料はダイヤル式ロックがついている書庫(銀行の金庫みたいなもの)に入っています。利用者はおろか、一般の職員も入ることは不可能です。(そもそも用もないけど) 入れるのは郷土資料担当者だけ。どう、うらやましい?

### 六 うわつ、こんな資料が入ってるよ!

奈良県からやって来て、津山のイナバ化粧品店(ご存知B'zファンの聖



人に見られると  
けっこう緊張するダイヤル回し

地)に行きたいと言う女性二人組。  
一応、資料に基づいてお答えせねばなりません、ってことで津山の観光資料を見てみると、ちゃんと載っていました『つやま満喫』。それどころか所蔵してるし『稲葉浩志君のメモリアルロードマップ』。うむっ、悔りがたし県立図書館。

七 他機関の人と仲良くなれちゃう。

図書館関係者は言うに及ばず、博物館や美術館の人達とも仲良くなれちゃいます。  
分からないことがあるときに、気軽に聞くことができる専門家がいるのは心強いもの。やはり、持つべきものは友ですよ。

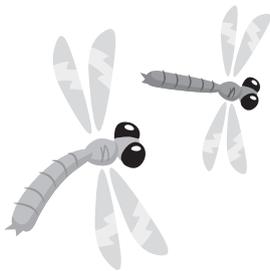
八 割りとうでもいいことに感動できる。

普通だったら気にも留めないような小さな出来事も、「岡山」と言うフィルターに引っかけかかってくると、簡単に「おおっ！」と感動できるもの。

例えば、ごく最近の「おおっ！」は、映画監督の大島渚氏が幼少のころ、笠岡に住んでたこと。そして、「しめしめ、これで展示テーマのネタが一つ増えたぞ」とネタ帳に書き込んだの言うまでもありません。

とまあ、つらつらといくつかあげてみましたが、どうです？面白そうですね。これで「今度から郷土資料の担当ね」と言われても安心だね(´▽`)

次回は流行？のイクメン(誰でもしよう)です。育休体験記をご期待ください。



アンケートに御協力下さい

岡山県図書館協会

創立六十周年記念事業の

アンケートについて

平成二十三年に協会創立六十周年をむかえることになり、記念式典や講演会など予定しております。

現在、企画の段階であり、協会会員皆様の御意見も伺い、参考にさせていただきます。

ホームページに記念講演会に関するアンケートを記載しておりますので、御協力お願いいたします。(メ切り九月末)



★岡山県図書館協会活動報告

新会員紹介 敬称略・順不同 (個人会員)

- 正富 豊 (岡山県立図書館)
  - 原田 敏和 (岡山県立図書館)
  - 山本 豊 (岡山県立図書館)
  - 島津屋 護 (岡山県立図書館)
  - 宮岡 佳子 (岡山県立図書館)
  - 大藤美由紀 (岡山県立図書館)
  - 三木 理恵 (岡山市立中央図書館)
  - 山下 憲生 (玉野市立図書館)
  - 沖田 礼子 (玉野市立図書館)
  - 田代 尚利 (玉野市立図書館)
  - 池田 祥子 (井原市井原図書館)
  - 山本 洋子 (井原市井原図書館)
  - 藤井 智明 (高梁市立中央図書館)
  - 山下 愛子 (新見市立新見図書館)
  - 徳光 哲也 (赤磐市立中央図書館)
  - 杉本 進 (赤磐市立熊山図書館)
  - 西村 秀雄 (鏡野町立図書館)
  - 滝口 祥雄 (金光図書館)
  - 高橋 真美 (金光図書館)
  - 尾原 健一 (金光図書館)
  - 山田 敏子 (岡山県立大学附属図書館)
  - 相賀 美幸
  - 池本 文子
  - 三宅 典子
  - 滝 美恵
- 会員状況 (平成二十二年七月現在)  
個人会員・・・三百三十八名  
施設会員・・・八十五館

### ★定期総会報告

平成二十二年度定期総会は六月七日に開催されました。主な決定事項をご報告いたします。

#### 【新役員】

異動・退職による役員の補充で、次の方々が選出されました。

#### 理事

- 林田 敏之（津山市立図書館長）
- 山下 愛子（新見市立新見図書館長）
- 西村 秀雄（鏡野町立図書館長）
- 津尾 佳典（吉備国際大学附属図書館長）
- 松村 謙（県青研委員長）
- 参与 廣田 貢（岡山県教育庁生涯学習課長）

#### 【平成二十二年度図書館功労者表彰】

次の方々が表彰されました。おめでとございます。

- 浅野 靖子（岡山市立漣安総合公園図書館）
- 石井 秀樹（倉敷市立玉島図書館）
- 笠原 和美（岡山県立図書館）
- 西口 早苗（総社市立図書館）

#### 【平成二十二年度事業計画】

#### ●会議

- 五月十四日 理事会
- 六月七日 定期総会

#### ●委員会

企画委員会を年二〜三回予定しています。研修・講習会の企画、会報の編集。六十周年記念事業の計画・立案・準備等を協力し合い進めていく予定です。

#### ●読書活動推進

一日こども図書館フェスティバルを共催します。今年度は新庄村公民館で十一月三日 文化の日に開催されます。

#### ●刊行

会員名簿を希望者に配布します。また、会報「岡山のとしよかん」を年三回発行します。

#### 【平成二十二年度研修会・講習会】

六月七日 図書館業務講習会  
「新しい図書館員のために」

会場 岡山県立図書館  
講師 菱川 廣光氏

八月二十五日 整理技術講習会  
「学校図書館の分類と配置について」

会場 笠岡市立図書館  
講師 赤木 かん子氏

十月頃 図書館業務研修会

十二月頃 教養講座  
二月頃 製本講習会

#### 【平成二十二・二十三年度企画委員】

平成二十二・二十三年の委員に次の方々が会長より委嘱されました。委員長には高橋潤子氏、副委員長には森山康子氏が選出されました。

- 高橋 潤子（岡山県立図書館）
- 古谷 祐子（岡山県立図書館）
- 梅田 雅也（岡山市立中央図書館）
- 森山 康子（倉敷市立児島図書館）
- 林田 敏之（津山市立図書館）
- 原田 恭江（笠岡市立図書館）
- 丸山 桂子（早島町立図書館）
- 三好 定男（金光図書館）
- 八幡 美紀（倉敷芸術科学大学附属図書館）
- 戸嶋 美江（山陽学園大学山陽学園短期大学図書館）

### ★会費の納入は

### お済みですか？

今年度の会費が未納のかたは、至急お納めくださるようよろしくお願いたします。

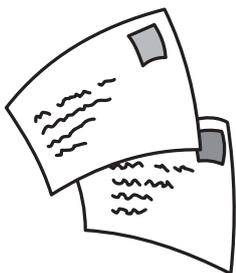
#### 【直接納入】

- 岡山市北区丸の内二一六一三〇
- 岡山県立図書館内（三階）
- 岡山県図書館協会事務局
- 【振込先】
- 中国銀行県庁支店
- 普通預金 一三九二三六九

岡山県図書館協会  
事務局長 清友 久美子

### ♣編集後記

前年度に引き続き事務局の担当となります角田です。今年度もよろしくお願いたします。  
会報作成にあたり、突然のお願いにもかかわらず執筆に御協力いただいた方々には大変お世話になりました。ありがとうございます。  
本紙に紹介したい図書館の取り組みなどありましたら、お知らせいただけると幸いです。



平成二十二年八月三十一日  
〒七〇〇一〇八二三  
岡山市北区丸の内二一六一三〇  
岡山県立図書館  
メディア・協力課 図書館協力班内  
岡山県図書館協会  
会長 西山 猛  
(〇八六) 二二四一 二二六九